

中筋川ダム防災操作により河川水位を低減

～平成29年8月台風5号における治水効果～

- 台風5号の豪雨により、中筋川ダム上流域では、8月3日1時から6日24時までの累計雨量で約436mm、最大時間雨量で約36mm(6日10-11時)の降雨となりました。
- この豪雨により中筋川は下流の磯ノ川地点で、はん濫注意水位(5.50m)を超える出水となりました。
- 中筋川ダムでは、平成29年8月3日15時00分から防災操作を行い、貯水位をH=69.97mまで低下させ洪水貯留に備えました。
- 中筋川ダムでは、ダムへの最大流入量(毎秒約102m³)の約73%をダムで貯留し、ダム流下量を毎秒約28m³に低減しました。これにより下流の磯ノ川地点の水位を約50cm低下させ、浸水被害の軽減に役立ちました。また、横瀬川ダムが完成していた場合は、さらに約20cmの水位低減効果が期待できたと推測されます。

※本資料の数値等は推定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

平成29年8月7日
国土交通省 四国地方整備局
中筋川総合開発工事事務所

問い合わせ先

国土交通省 四国地方整備局 中筋川総合開発工事事務所
電話(0880)66-0142

副所長	森本 修三	内線(204)
管理課長	江口 正則	内線(6121)
◎調査設計課長	渡辺 雄二	内線(351)

◎主な問い合わせ先

中筋川ダムにより河川水位を低減 ～平成29年8月台風5号における治水効果～

436mm(時間最大36mm)の雨

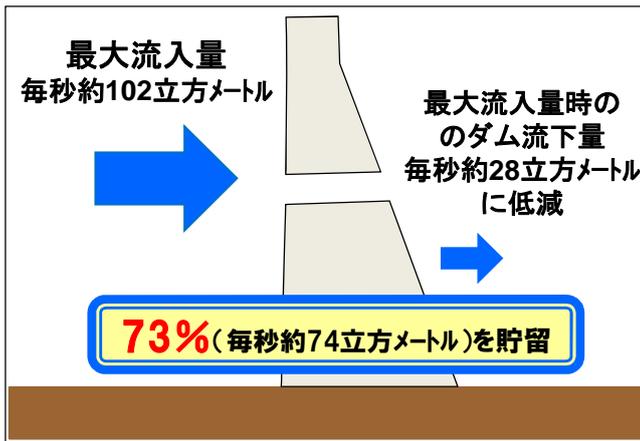
中筋川ダム上流域において、8月3日1時～8月6日24時にかけて **累計約436mm**
(**時間最大約36mm**)の降雨となりました。

中筋川ダムにより73%を貯留

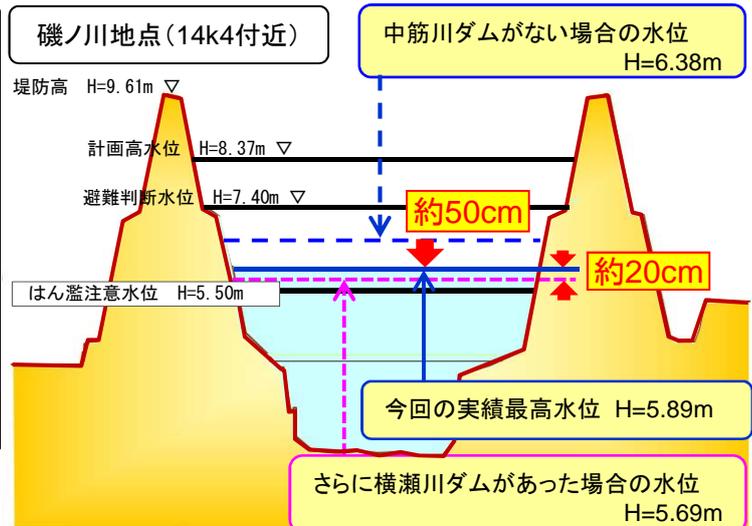
中筋川ダムへの最大流入量**毎秒約102立方メートル**の**73%を貯留**し、ダム流出量を**毎秒約28立方メートル**に低減しました。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したもの(承認番号 平23四複、第84号)を一部転記したものである。



中筋川ダムの防災操作状況
(8月6日23時50分)



※上記(H:量水標)の値に0.577mを加えた値が標高(m)となります。

中筋川ダムにより河川水位を約50cm低減

中筋川ダムの防災操作により、**磯ノ川地点で約50cm**水位を低減させました。

横瀬川ダムにより更に約20cm低減

建設中の横瀬川ダムが完成していた場合は、**更に約20cmの水位低減効果**が期待できます。



磯ノ川地点(8月6日23時50分撮影)

※本資料の数値等は推定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

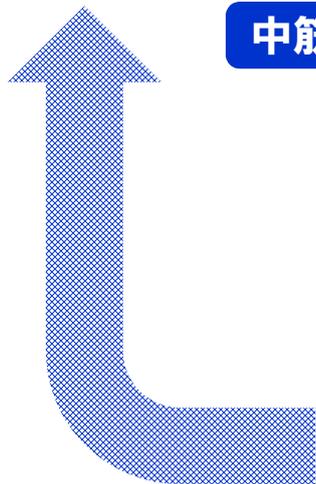
平成29年8月台風5号における治水効果 ～中筋川ダムにより河川水位を低減～

中筋川ダムの防災操作後の貯水位 約 $H=79.35\text{m}$

(8月7日9時00分)



中筋川ダムの防災操作前の貯水位 $H=69.97\text{m}$



(8月4日7時00分)